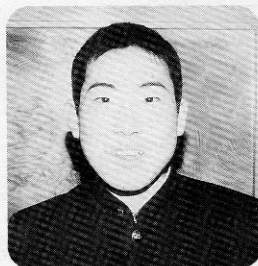


あたたかいふるさとづくり 研修大会



1月29日(月)、改善センターにおいて「あたたかいふるさとづくり研修大会」が開催されました。この大会は、差別のない、よりよいまちづくり実現を目的に開催されたもので、ビデオ鑑賞、児童・生徒の意見発表や、防府市教育事務所の門田美和子先生の講演などが行なわれ、参加した160余名は、熱心に聴講していました。

今月号では、4名の意見発表のうち、2名の作品を紹介します。



日置中学校 2年
深川大地

今僕にできること

街中に行くと、良く外国人を見かけます。そんな時、いつも思うことがあります。

「あ、ガイジンだ。」と…。

日本人は外国の人に冷たい人が多いと思いませんか。僕自身、そんな人間だからそう思うのかわかりません。けれどたずねられたり、話しかけられたくないなどの理由で、避けて通ったりしてしまいます。これは、相手にとって、とても辛い事ではないでしょうか。みなさん、知っていましたか。ガイジンという言葉には、

いくつかの意味がふくまれているのです。全ての意味に共通している事は、「差別用語」だという事です。普段、外国の人の事を言う時に、「ガイジン」という言葉を使いますが別に差別しようとしている訳でもなく、そんな事は考えずに使っています。しかし、それで傷つく人がいるのです。外国の人々はガイジンという言葉を使っています。差別されていると感じています。それなら、使わなければいい。ただそれだけの事だと思いませんか。ガイジンとは、その人の人という字です。言葉、食べ物、肌の色、生活の様子が違っていてもみんな同じ「人間」です。それなのに、内と外で分けるのはおかしいと思えます。

ところで、みなさんは「洗染一揆」という言葉を知っていますか。江戸時代に起こった身分差別に対する一揆です。

頭につめ込む知識として習ったのではなく、その当時の人がどんな様子だったかなど、本で読んでみました。その時、ふと思った「今までなんて失礼な事をしてきたのだろう。」と。僕は、身分差別に對して一つの感想をもっていました。

「かわいそうだ。同じ人間なのに、なぜこんな事をするのだろう。」

当たり前の事ですが、僕は一揆をした人間でもなく、それを見たこともありません。何も知らない人間が、ちょっとした知識をえたからといって、当時の人々の苦勞を、「かわいそう。」という言葉でしめくくってしまう。分かるはずのない他人の痛みを、分かたふりをして正義感あふれる感想をのべただけで、終わらせてしまう。そのことが、とても失礼な事のように思えたのです。

多くの人がなくそうと努力して、今もなお続いている差別。その当時の人々に代わって、今の僕達にできる事。それは、江戸時代からの努力を受けついでいく事ではないでしょうか。

世界中に差別は存在しています。アフリカでのアパルトヘイト。昔、ドイツであった

ユダヤ人虐殺。そして日本人のいじめ。どれも根強く残っています。「差別はあつて当たり前。全てなくすのは不可能」そんなふう言われています。しかし、これらの差別は、ある日、人の心から突然生まれたのだから、突然なくす事も可能はずです。日本人全てがガイジンと使うのをやめよう。と意識すれば数日でなくなると思いませんか。世界中の人々が差別をやめようと思えば、数ヶ月でやめる事ができると思いませんか。要は一人一人の意識の持ち方の問題です。一人一人が上辺だけの感想で終わらせず、しっかりと今までの事実を見つめる事です。しかし、世界中の人々がそういう考えを持つ事は、現実ではかなり難しい事です。よく「ねた子を起すな」という言葉を耳にします。過去の事を知らない子供に、わざわざ過去の差別の事を教えるな。というような意味をもつ言葉です。しかし、そうすれば、どこからかましがった知識が入り、悪くはない事も、良い方に発展していかさないと正しい知識を取り入れて、まずは身の回りにある言葉から意識していく事でしょう。